

教科カリキュラムに位置づけた切り抜き新聞

中学校社会科学習において、年間指導計画上で負担にならないよう計画されたNIE切り抜き新聞作り。

I 本実践の特徴

- 1 新聞の切り抜き記事を資料として使うことにより、カリキュラム上負担をかけずに手軽に学習新聞が作れる。
 - ① 資料収集としての新聞の切り抜きを夏季休業中の課題と位置づけることで、授業時数に余裕ができる。
 - ② 新聞切り抜きをそのまま紙面で使うことで、作業的な時間を短縮し、その分資料の選考・編集場面に時間を使うことができる。
- 2 調べ学習の資料として新聞を使うことで、有効な資料分析ができる。
 - ① ネットと比較して情報の出所がしっかりしており、安心して教材として活用できる。
 - ② 集めた情報の整理・分析が手軽で、情報の内容比較なども容易になる。
 - ③ 新聞紙面の構成が手軽で、手書きで紙面を作るよりも短時間で完成させられる。

II 実践の経過

1 資料収集

- ① 2学年の社会科学オリエンテーションにおいて、新聞購読率を調査、およそ70%の家庭が購読している実状を把握。近所の祖父母宅で新聞を読むことが出来る生徒を含めると90%を超える。夏休みに新聞を利用した課題があることを予告し、出来る家庭は4月から古新聞を確保することをすすめた。
- ② 夏休みの宿題として「新聞紙面から世界のニュース（スポーツ・芸能を除く）の切り抜きを1人最低20枚集めてクリアファイルで提出する」課題を与えた。枚数が多ければ多い程、課題としての評価は加算されることとした。
- ③ 新聞を購読していない生徒には、学校で指定校として配布されている新聞と教員が家庭から持ち寄った新聞とで対応した。夏休み中に特定の日を設け、新聞切り抜き日とした。事前に申し込んだ生徒の3名のうち、1名のみが参加して切り抜きを行った。
- ④ 課題として「世界のニュース」という大きな枠で提示したため、多くの生徒にとって取り組みやすく、普段は課題提出率の低い生徒も提出することが出来た（最終

提出率98%（未提出は不登校生が多い）。中には親が切り抜いた生徒もいた（はっきり確認が取れているのが2名）。

2 テーマ設定

① これからの授業の内容を伝え、評価の基準を明確にする。以下の項目が生徒に示した内容

- A 事前に読者に伝えたい内容をはっきりと決めて、それを具体化出来ていること。
- B 同じような記事の羅列ではなく、目的にあわせて記事が精選されていること。
- C 記事の中で重複する内容や、伝えたいことと直接関係がない部分は記事の再構成をかけること。
- D レイアウトは無駄なく、バランス良くまとめ、その構成に意味を持たせること。（読み手に読ませたい順番で記事を配置すること）
- E 各記事の特に読んでもらいたい部分にはアンダーライン等を入れ、趣旨をくみ取ってもらいやすくすること。
- F 必要な記事には必要なコメントを付けること。コメントは単なる感想ではなく、問題提起や作り手の意見などを盛り込み、読み手に伝えたい内容を伝える手だてとすること。

② 各学級で2～3名のグループを作らせた。グループでの活動の意義は、友人と話し合い、意見を交換しながら作品をまとめてことにあるが、グループ内の人数が多いと、活動に参加せずに終わる生徒もあり、やる気のある生徒に任せっきりになる傾向がこれまでであったため、今回は最低規模のグループでの活動とした。

結果的にグループの提出率は85%程だった。これまでの大きな課題（グループ新聞等）と比較するとほぼ同率。

③ グループが出来ると切り集めた新聞を分類・整理してテーマ決め。手元にある記事を国別や内容別に分類し、テーマを決定していく。

ほとんどの生徒が夏休み期間の新聞から切り抜いているので、テーマは限定的になりがちだった。多くのグループが「リビアでの内戦」と「中国の列車事故」。しかし、安易にこの記事が多いからという理由付けが多かったため、テーマの多様性を出すために以下の指示を付け加える。

「今回の新聞は優秀12作品は沖縄県中文連の県大会に出品すること、出品12作品は出来るだけ幅広いテーマから選出すること、さらに次点の12作品は校内学習発表会で掲示すること、いずれにしても代表作品はそれなりの評価点が加算されること」を連絡すると、やる気や能力の高いグループは新たなテーマ設定に取り組んだ。

④ 生徒がもっとも苦しんだのがこのテーマ設定であった。安易にリビア内戦について選びたがるグループが多かったが、北アフリカの現状や内戦自体の定義も解らぬままに決定しようとする生徒は、上記の「評価の基準」A・Bの要件をクリア出

来ず、苦しんだ。収集した記事を読みすすめるなかで、自分自身が理解できる内容へテーマが変わっていく。

活動当初は「中国列車事故」「リビア内戦」が大半だったが、「各国の原発対応」「災害と異常気象（タイ洪水・米国ハリケーン等）」「アメリカの宇宙開発」「オバマ大統領の活動」などに変わっていった。

3 新聞の作成 テーマが決まったグループは以下の流れで新聞を仕上げていく。

① テーマに即した資料の収集。

他のテーマを選択したグループのスクラップ記事の中から、必要な記事を収集。再度、自宅にて過去の紙面からの切り抜き。夏休み明けの記事からの収集。特に実践中は校内の閲覧新聞に生徒が群がり、教室内でも時事的な会話が頻りに聞かれた。特にフセインが殺害されると、リビア内戦のグループは大慌てで紙面の構成を変えていた。

② 伝えたい内容に合わせて資料の選抜。

本県では琉球新報・沖縄タイムス2社に読者が分けられるため、どちらの記事を使うのか、コラム等も微妙な見解の相違がみられ、資料選択の大切な場面となった。当初、多くのグループは新聞用紙を切り抜きで埋めることに注意を奪われ、両社で同じ内容を伝える紙面や、伝えたい内容から離れた記事も切り抜き新聞紙面に入れようとしていた。しかし、担当教師の「伝えたい内容が伝わりにくい」という指摘や、切り抜き新聞紙面のキャパシティの問題から、記事の内容を吟味し資料の選抜を進めていった。

③ 伝えたい内容に合わせてレイアウト

利用する記事の選択が終わると、切り抜き新聞のレイアウトに入った。これまでの活動の中で、何をどう伝えるかが明確になると、同じテーマの新聞でも、伝えたい内容によってレイアウトが変わってくる。

時系列に並べたグループが多かったが、中には一つの事象について賛成派と反対派との対立軸でレイアウトしたり、国や地域に分けて整理するグループなどが見られた。



④ アンダーライン・コメント等を添えて完成

最後に各切り抜き記事のなかで、「どうしても読んでもらいたい部分」に蛍光ペンでアンダーラインを引かせた。このアンダーラインを順に追って目を通すことで、

自分たちの新聞が最低限伝えたいことが伝わるように工夫するように指示を出した。

最後に必要と思われる記事にはコメントをつける作業をさせた。当初は単なる感想を書く生徒が多かったが、感想ではなく意見や解説をつけるように指導した。この際も伝えたい内容をはっきりと決めているグループは、自分たちの伝えたい内容を端的に入れ込みながらコメントをつけていった。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ① 資料集を夏休みの課題とし、新聞記事の切り抜きをそのまま使うことにより、大幅に時間の短縮が出来た。テーマ設定から完成まで、各学級が8～9時間程度で収まった。
- ② 新聞記事をそのまま張り込むので、だらだらとした転写の時間がなくなり、その分を資料の吟味・選択にまわし、有効な学習場面を持つことが出来た。
- ③ 授業後に学校内の自由観覧できる紙面を生徒が開くようになった。授業の中でも時事的な話題について、生徒からの質問も上がるようになってきた。
- ④ 沖縄県中学校文化連盟県大会に出品し、高い評価を得ることができた。また、新聞紙面の利用法の一つとして提案することができた。

2 課題

- ① 学級内で極端に国語力の劣る生徒にとっては、難解な授業となった。新聞紙面を読み解くことが出来ない生徒のために、今後は国語科との連携も必要と思われる。
- ② 今回は新教育課程の世界地理のまとめとして扱った授業だが、時事的な要素が強くなるので、新聞記事の内容が先読みしにくいところに扱い辛さがある。
- ③ 新聞を購読していない生徒のための配慮をしたつもりだが、県内2紙が毎日届いた NIE 県指定実戦校の現状でも、十分に対応出来なかった。今後は紙面の調達も課題の一つになるだろう。

